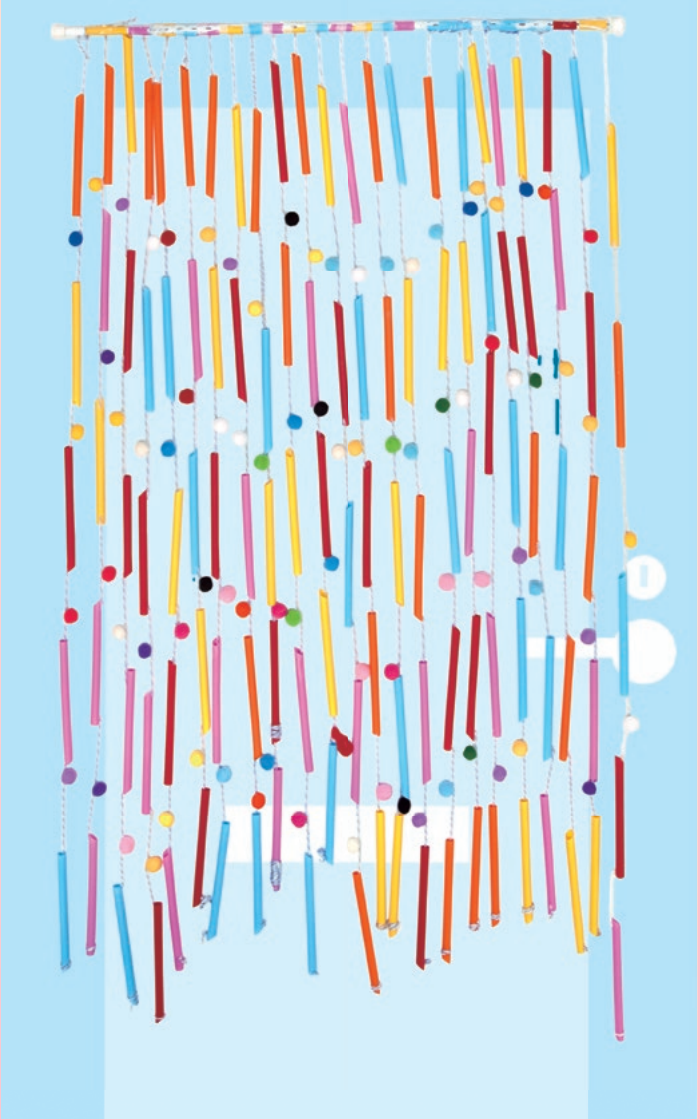
社会福祉法人ゆたか福祉会広報

ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくんとみらいちゃん

2022
No.478

障害者のゆたかな未来をめざして 11



「のれん」
つゆはし作業所
猪飼 春雄さん
※紹介が10ページにあります。

CONTENTS

▶ 私たちの実践　～障害のある人の「働く」を支える～ …… P2～3
▶ 3年ぶりのベトナム訪問 …… P4～5
▶ 消費税の更正請求訴訟 …… P6

2022年11月10日 毎月1回10日発行　一部100円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会　〒457-0852　名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356　FAX 052-698-7358　http://www.yutakahonbu.com/

愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会　検索

シリーズ 私たちの実践
～障害のある人の『働く』を支える～

第3回 リサイクルみなみ作業所
「分かりやすい作業環境と作業方法の工夫」①

【事業と定員】
就労継続支援 B型―35名

■はじめに

リサイクルみなみ作業所は名古屋市からの委託を受け、主にペットボトルを資源化するための選別作業を行っている事業所です。家庭から出されるステーション回収は南区、瑞穂区、緑区、天白区の4区から、コンビニやスーパー等から回収される拠点回収は、市内全域から搬入されます。

その量は季節や景気によって変動しますが、1日7～14tになります。ペットボトルはキャップがついたままだったり、飲み物が入っていたり、たばこやペンキ等が入っている物もあります。またビンや缶、プラスチック製容器包装等が混入してきます。ベルトコンベヤ上でこれらの「異物」を取り除き、ペットボトルを再資源化する事、そして「容器包装リサイクル法」の基準に基づいて、取り除いた異物も正しく分別し、資源として次の業者へ引き渡すことでゴミを減らしています。

利用者は年齢が24歳から71歳と幅広く、また障害支援区分も5や6といった障害の重い方が多く働いています。2021年度の平均工賃月額は81，647円（工賃＋賞与月平均）でした。環境行政に位置づけられ、大規模な設備が整った条件的には恵まれた施設です。障害のある仲間一人ひとりが、自らベルトコンベヤ上に手を伸ばし、異物を見分けて取り除き分別する責任ある事業の担い手です。職員では「働く力」を伸ばす支援について検討を重ね、仲間の皆さんと話し合ってきました。ここ数年の主な取り組みを紹介します。

■5Sの視点を取り入れて

作業所では2019年から生産性や品質の向上、分かりやすく働きやすい職場づくりを目指し、5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣）活動に取り組んできました。

4本のベルトコンベヤがあるペットボトル手選別現場（以下ライン）は、年齢も障害も違う方たちが、毎日30名ほど働く主となる現場です。作業工程はラインの上流から、先頭→中央→点検という3工程で異物を発見し、取り除き、ラインの脇に置かれた分別用の箱（分別カート）やカゴへ入れていきます。これまでは、どの工程でも同じように何種類もの分別をしており、一度に多くの動きと判断が求められてきました。そこで持場の役割を整理し、その工程にふさわしい環境づくりを進めました。

1. 先頭は、異物の量も種類も多い場所です。ラインの片側は大きな異物（可燃物、缶・ビン）を取る担当、反対側はプラスチック製の異物とキャップのついたペットボトルを中心に取る担当として工程を分解しました。それぞれ取り除くものの種類を絞ったことで、より速く取り除けるようになり、ライン上の量も減るため、次の工程の人が細かい異物も見つけやすくなりました。可燃物をたくさん取れるように、分別カートの可燃入れも大きくしました。

2. 中央では、ライン上の異物を意識しながら、点検工程で取りやすいようにガラス片をまとめたり、ライン上から抜き取られたキャップつきペットボトルのキャップをはずしたり、マスを設置し、中身（飲

★各工程ラインの両側に配置されます。１つのラインに向かい合って各工程２名ずつの配置となります。

3.

み残し）を抜いたりします。取り除かれたプラスチック類を回収してまわれるように、回収袋もカート型にしました。点検では、異物の見逃しが無いよう意識します。細かなガラス片等を篩で取りきれるよう、目の高さにライン用のミニ篩とチリトリをセットしました。またこの工程で異物除去が間に合わない時には、「ラインを停止できる」と定めました。

このように作業内容を明確にして、工程ごとに道具を見直すことで、より役割を担えるようになりました。

作業の「準備・片付け」では、工程ごとに違う道具の設置場所が分からないことへの対策として、定位置の床に色分けした目印をつけました。赤色の道具は赤色に、キャップつきペットボトルを入れるカゴは黄色にすることで、自ら行動できるようになっています。

利用者主体をめざす係活動でも５Ｓを位置づけ、「定位置に道具が戻っているか」「定数があるか」を毎日チェックし、破損状況の把握もできるようになりました。５Ｓ委員会を立ち上げ3年ほどが経ちますが、「必要以上に物を増やさない」「使ったものは元に戻そう」と、職場の雰囲気も変わってきました。今後も、見てわかりやすい職場環境づくりを追及し、改善を進めます。

■作業マニュアルの見直し

これまでも作業マニュアルはありましたが、長い間改訂されず、現状に合っていない部分が見られるようになっていました。また作業工程によっては、職員間でもやり方がばらばらで、「利用者への伝え方も統一されていない」という課題がありました。どういう動作や手順が効率的なのか、ムリのない分かりやすい作業方法について議論し、作業方法や道具の使い方を再点検しながら見直すことにしました。

マニュアルに示す内容が、利用者にも職員にも分かりやすいように職員の支援ポイントを記入しました。また、道具や動作が人によって呼び方が違うことが分かり、「指示も混乱していたのではないか」という気づきもありました。

職員の支援ポイント付き作業マニュアルは、動画や写真を多く使用したパワーポイントとして作成しました。7領域からなる内容は、5つの作業種目、準備・片付けの手順とポイント、作業態度です。新たな利用者や職員、実習生への作業手順の説明や、利用者が新しい工程にチャレンジする時に活用しています。

作業所では、夏と年末年始にペットボトルの搬入量が大きく増える繁忙期となります。繁忙期前にはマニュアルを活用し、作業学習会を実施しています。ライン上から異物を「探す」動作の学習では、

・両手を使ってペットボトルを肩幅くらいにかき分ける
・ラインの底の方まで異物が無いか確認する
・視線はライン上へ

等、実際にポイントを確認しながら、作業動作の習得を目指しました。作業後の終礼で「今日は前にやった探す動作を意識して作業しました」と振り返る声もあり、少しずつ定着してきているように思います。

今後は、利用者が働く力を伸ばしていけるよう、作業評価の内容やマニュアルの支援ポイントに立ち返って議論を深め、個別支援計画へ反映させていきたいと考えています。このマニュアルを見直してから2年が経ち、すでに変更された作業方法や改善したほうが良い点が出てきています。現状に即した活用しやすいものになるよう、見直しを重ねることが必要だと思っています。

リサイクル現場 職員集団

（次号へ続く）

EnjoyableEnglish にて

3年ぶりのベトナム訪問に行ってきました！

9・4～9・10 ベトナム視察研修とフエ科学大学訪問

理事長　鈴木 清覚

コロナ禍で中断していたベトナム視察研修が、3年ぶりに社会福祉法人愛光園、同名古屋ライトハウス、初参加のコープあいちの皆様方と実現することができました。

今回は、連携をしているフエ科学大学でのパートナーシップ協定の正式調印式も予定されていた為、3法人の理事長をはじめ、総勢16名の視察団となりました。

ベトナム現地では、障害者福祉施設の現場視察、提携団体のEnjoyable Englishとのワークショップ、フエ科学大学との訪問交流などを実施しました。

フエ科学大学では社会福祉学部の学生さんをはじめ、フエ地域の関係団体の皆さんが参加するセミナーも大学主催で開催して頂き、私達も講師として報告を行いました。

今回の取り組みは様々な意味に於いて、ベトナムとの提携活動の歴史的な節目となる視察・訪問となりました。この間の活動の詳細は、先月号の広報誌で紹介した書籍『循環型人材確保・育成とベトナムとの国際協力』で紹介されています。またぜひ、お読みください。

今回の視察研修には、入職2年目の若手職員が参加しました。それぞれの感想を紹介します。

日本の障がい者・ベトナムの障がい者

ゆたか生活支援事業所なかがわ　水野 久美子

障がい児・者の支援団体をいくつか見学させて頂き、制度が確立されていない中での生活であると感じました。「一般企業への就職を目指す」「自営業の開業を目指す」団体があり、「重度の障がい者は、家族といるしかないのだろうか」と感じました。

ベトナムの障がい者の皆様がどのような生活を送っているのか、今回で全てを理解することはできませんでした。今後もベトナムとの交流が続いていくと思いますが、どう変わっていくのかにも注目し、自分が出来ることを探していきたいです。

「日本の手話と違う？」と手話に関心をよせて

ベトナムの方と自分達の対等の意味とは

ゆたか生活支援事業所あつた　川松 亮太

一番の印象は、ベトナムの方の優しさやひたむきさだ。皆さん、フレンドリーに接してくれ、自分が英語やベトナム語を話せなくても、呆れられず、話を聞いてくれ、話しかけてくれた。そして、上手に日本語でコミュニケーションを取ろうとしてくれた。わからない日本語でも意味を聞いて、自分なりに理解しようとされている勤勉さには舌を巻くほどだった。

これから先、ゆたか福祉会がベトナムの方と対等な関係を築いていくなら、自分達もベトナム語を覚える努力をすることが必要だと思った。

お世話になったホストファミリーの皆さんと

初めての現地訪問に感動

名古屋高齢事業本部本部長　岡山 加代子

私は当初からこのベトナムプロジェクトに、オンライン介護講習の講師として2年携わってきました。コロナの影響により1期生の教え子たちが来日できない状況でしたが、今回フエで会うことが出来、画面ごしではない再会を嬉しく思いました。

ベトナムの多くの若い人たちが町に出ている姿と熱気を肌で感じました。日本人は感情を隠しがちですが、純粋な感情をストレートで伝えようとする姿を美しく思いました。

聴覚障害のカフェでは、経営者が障害の人たちに商品の価値やホスピタリティをどう身に着けるか、コロナ禍の苦労も伺い、学びのプロセスを学習する機会となりました。

EnjoyableEnglish にてレクリエーション 岡山（中央 右）

次へのアクション～皆の想いを大切にしながら～

法人本部　向久美子

プロジェクト立ち上げより、事務局を担わせていただいています。

国境を越えた展開の中、制度や機関・文化の違いなどに翻弄されることばかりですが、理事長の人脈と、関わる皆さんに助けられ、この連携が進んでいると痛感しています。

今回の視察・研修は〝学びの機会〟であると同時に、〝次へのアクションの機会〟でもあると思いました。今までに出会った方々との絆を深め、ダナンの障害者支援団体など、新たな出会いと進展がありました。

繋がりを大切にしながら人の輪を広げていく進め方は、ゆたか福祉会の歴史と重なります。「皆の想いを大切にしながら進めていきたい」と改めて思いました。

あかつき共同作業所のクッキーを手土産に

通訳として関わって ～もっと成長してがんばります～

ゆたか生活支援事業所みなみ　チャウ ティミーリン

ゆたか福祉会のベトナム研修に通訳として参加しました。主に施設見学の通訳や Enjoyable English との連絡調整、移動で使うバスの運転手とのやりとりを行いました。

3年前、初めて通訳の仕事をした際は、多くの人の前で通訳をしたので、とても緊張しました。このプロジェクトがここまできたのも、自分の力だけではなく、皆さんの協力のお陰だと思います。

フエ科学大学でのセミナー

この研修で3法人とベトナムの社会福祉制度の事、ベトナムの文化などがよくわかるようになって、とてもうれしかったです。

これからもっと経験を積み、成長をし日本語の勉強もして、いろいろな仕事ができるようにがんばりたいです。

ベトナム視察に同行させていただいて

生活協同組合コープあいち　小河原 昌二

施設見学でコープあいちの商品を渡す（左端 小河原氏、右端 竹内氏）

3法人の皆さんが取り組んでいる『外国人雇用（循環型人材確保・育成）』について学ばせて頂く目的で、小河原（福祉管掌）、竹内（人事部）の2名が同行させていただきました。

この取り組みは、日本とベトナムの国際協力を意識したもので、単に「安い労働力だから」「人が不足しているから」という一方通行の人材確保ではなく、この先も循環していき、ベトナムの将来も考えた持続可能な画期的チャレンジとなっています。『ベトナム人材の成長や未来まで考慮する』というビジョンのもと取り組んでいる事を肌で感じる視察となりました。3法人・ベトナム双方のメリットが合致し、循環型の人材育成を行う事は、SDGs を推進しているコープあいちにとっても大いに共感できる点です。

コープあいち福祉分野の職員数は 875 名。50 代以上が 674 名、50 代未満が 201 名です。10 年先を考えると、若手職員の採用が最優先課題となっています。様々な採用チャンネルを増やして取り組みを強化していくひとつに、外国人雇用も必要だと感じています。

愛知県内の3法人で画期的な取り組みがされている環境は、コープあいちにとって大変恵まれており、引き続き学ばせて頂きながら、今後この取り組みに参加できるようにしていきたいと思います。

仲間たちの工賃に係る消費税の更正請求訴訟について

事務長　宇川 賢彦

この間、広報誌上でもお知らせしてきた仲間たちの工賃に係る消費税の更正請求は、名古屋国税局不服審判所で審理が行われていましたが、残念ながら2022年2月10日に審査請求を棄却する旨の裁決がなされました。

私たちとしては、「仲間たちの労働の価値が認められない国税不服審判所による不当な裁決」と捉え、訴訟に訴えることを前提に書面などの準備を行ってきました。幸い、原山法律会計事務所の協力を得ることができ、7月19日に提訴。10月5日には第1回口頭弁論が行われました。

私たちが管轄の熱田税務署に、更正請求を行ってから3年余が経過していることから、今回の広報誌上では、提訴までの経過を改めてお伝えすることにします。（今後、広報誌12月号から関連記事の連載を予定しています）

熱田税務署に対する更正請求と再調査請求

○更正請求

・2019年5月30日付で管轄の熱田税務署に対し、ゆたか福祉会として2013年度～2018年度分として納付した5年分の消費税の内、仲間たちの工賃部分に該当する消費税の更正請求（税の還付請求）を行いました。これが今回の消費税と仲間の工賃の扱いをめぐる問題の出発点となります。

・しかし、同年10月15日付けで、税務署より当法人が行った更正請求については、「更正請求に対して更正をすべき理由がない旨の通知書」が届きました。

○再調査請求

・税務署の決定について不服があれば、再調査を求める制度がある為、2020年1月10日には、同税務署に対し再調査の請求を行いました。また同時に、仲間たち・家族関係者で緊急に集めた1000名分の請願書を提出。仲間たち・家族の代表が税務署に出むき、意見を直接伝える請願行動も行いました。

・これらの取り組みを行いましたが、決定が是正されることなく税務署から同年4月9日付けで、私たちが求めた再調査の棄却の通知が届きました。

国税不服審判所に審査請求

管轄の税務署（熱田税務署）の決定が是正されない場合、上級の機関である「国税不服審判所」への審査請求を行うことができる為、2020年6月2日付で審査請求書を提出し、審理が開始されました。同年11月13日には、口頭意見陳述が開催され、ゆたか福祉会は理事長と富田税理士が意見陳述を行いました。（熱田税務署・国税担当者からの意見表明はありませんでした）

その後私たちからは、意見書・追加の証拠書類の提出などを行い、2022年2月10日に審理が終了しました。

国税不服審判所の裁決は、審査請求の棄却という結果となり、私たちはこれを不服として裁判所への提訴という現在までの経過となっています。

成年後見もやいの取り組みの現状と課題 その2

特定非営利活動法人成年後見もやい　理事　塚本 道夫

■つながって「親なきあと」問題の解消を

障害者の親が持つ不安として、親がいなくなった後のわが子の生活上の問題があります。おもには、「経済的（お金の）問題」「住む場所の問題」「身の回りの日々の生活の問題」です。社会保障・社会福祉のさらなる充実は重要な課題であり、自己責任、家族責任を強いる新自由主義的な政策に抗するとりくみは必要であることを前提として、これらについて考えます。

まず、「お金の問題」ですが、障害基礎年金や障害者手当を受給していれば、必要以上のお金を持っていなくても、年金、手当、障害者作業所の作業工賃等で通常は生活できます。万一、生活ができなくなったら生活保護申請を検討することもできます。「住む場所の問題」では、障害者の一人暮らしが困難であれば、グループホームや施設で生活することができます。親が元気なうちにグループホームに入居あるいは体験的に利用することもできます。「身の回りの日々の生活の問題」では、親が常日頃から相談支援事業者、障害者福祉サービス事業者、親の会等とつながりを持っていれば、何とかなるものです。「後で困らないようにできるだけ多く残してやりたい」「自分がいなくなったら、この子の後の生活が心配」「一日でもいいから、この子よりも後で死にたい」等々、親としての切実な気持ちは理解できますが、大切なのは親が元気なうちに、親があるうちに、つながりを持つことです。親自身がこれらのつながりを持つことが、結果として、障害者を抱える家族の深刻な８０５０問題、老障介護等をなくしていくことになるというのが、もやいの活動で得た実感です。

簡単に解決できる問題ではありませんが、「親なきあと問題」は親がもつ不安の問題であるということもできます。「つながっていれば何とかなる」と楽観的になってもいいのではと思います。

■成年後見制度の利用促進ともやいの発展をめざして

国は3月に第二期成年後見制度利用促進計画を決定しました。本人にとって必要な時期に必要な範囲・期間で利用できる制度、後見・保佐・補助の三類型の一元化、終身でなく有期（更新）の制度等についての民法上の見直しを検討することや当面の成年後見制度の運用改善として、意思決定支援の浸透、適切な後見人等の選任・交代、適切な報酬算定・報酬助成推進等にとりくみます。権利擁護支援を行うための地域連携ネットワークの推進や市民後見や法人後見の担い手の確保・育成等も掲げています。

もやいのような法人後見実施団体に対しては障害者や支援困難な事例への担い手としての役割が期待されています。

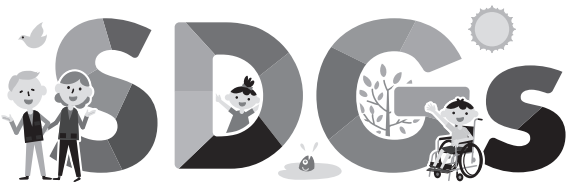
しかし、その運営体制や財政基盤は厳しいものがあり、正会員・賛助会員の勧誘、寄付金募集、講演会収入等の努力や職員、後見支援員のボランティア精神で成り立っているのが実情です。そのため、今年の6月に名古屋市に対して、来年度予算編成に向けて、もやいを含む市内7つの法人後見実施団体（いずれもＮＰＯ法人）が連名で運営費補助金の制度化や後見人等報酬助成制度のさらなる充実を要望しています。

今後ともみなさんのご理解、ご協力をお願いします。

正職員募集　高齢者、障害者の権利保障をめざします。

募集内容	来年3月大学卒業予定者及び既卒者
資　格	社会福祉士 又は 社会福祉士国家試験受験資格者
給　与	当法人規定による。（地方公務員並み）
休　日	週休2日（土日）、年末年始、有給休暇
応　募	履歴書・職務履歴書を郵送してください 書類選考の上、面接実施

特定非営利活動法人
成年後見もやい
〒456-0031
名古屋市熱田区
神宮二丁目３番４号もやいビル
☎ 052-746-9395



SDGsの取組み
ゆたか福祉会として大事にする目標

昨年10月に、ゆたか福祉会SDGs委員会を開始し、「ゆたか福祉会としてSDGsの取組みで何を大事にするのかを鮮明にさせること」が必要と、そこに向けて、今年3月には管理職の学習会、4月には職員にむけての学習会、同時に全職員を対象にしたアンケート等にとりくんできました。職員201名からのアンケートの集計には、フレンズ星崎の就労移行の仲間が「全回答のデータ入力をしてくれる」など活躍してくれました。学習やアンケートをふまえて、7月に「SDGsの取組み　ゆたか福祉会として大事にする目標」を策定してきましたのでご紹介します。この内容を基本に、ゆたか福祉会としてのSDGsの取組みを進めていきます。

（ゆたか福祉会SDGs委員会）

2015年国連で提起された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が掲げた17の目標と169のターゲットからなる「SDGs（持続可能な開発目標）」にむけて、ゆたか福祉会としても第6期総合計画で取り組むこととなりました。

たくさんの目標の中で何を大事に取り組むのか、全職員対象にアンケートを取るなどして、検討を進めてきました。ゆたか福祉会の理念と積み重ねてきた事業をふまえて、17の目標から下記の10の目標を、ゆたか福祉会として大事に考えしっかり取り組んでいきます。

3 すべての人に健康と福祉を
1 貧困をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを、

ゆたか福祉会理念の私たちの目指すものでは、「障害のある人たちの〝いのちとねがい〟を大切に、社会への参加と豊かな暮らしの実現をめざします。」「誰もが安心して暮らせる地域を作るために、たくさんの〝つながり〟を築き広げていきます。」をかかげ、事業を取り組んできました。「SDGs 3 1 11の目標」は、ゆたか福祉会の理念と一致し、事業の中心目的でもあります。

事業として、障害者・高齢者の健康と福祉を推進するとともに、日本社会の中で貧困の状態におかれている障害者の問題を、働くこと、暮らすことから解決にむけ努力を重ねています。さらに障害者・高齢者をはじめ誰もが暮らしやすい地域づくりを目指し取り組んできました。

法人と全ての事業所が、改めてこの「3 1 11の目標」との関係でこれまでの事業や運動を見直し、目的意識をもち事業や運動を推進し、新たな事業展開も含めさらに発展させます。

特に目標11においては、近年取り組みが弱くなっており、各事業所が新たな工夫も検討して取り組みをすすめます。法人としては、第6期総合計画の「元塩・星崎地域の事業所機能再編・機能強化及び地域づくり」の取組みを、SDGsの視点からも推進を図ります。

5 ジェンダー平等を実現

ジェンダー平等を実現の目標は、職員アンケートでも取り組みたい希望が高い位置にありました。仲間支援においても、職員の働き方においても、ジェンダー平等を意識して取り組みます。

ゆたか福祉会は、管理職の男女比などは比較的高い水準にありますが、育休を男性職員が取りやすいかというと、福祉現場の人材確保の厳しさとあいまり、高いとは言えない現状もあります。男性の育休取得にとどまらず、ゆたか福祉会としていくつかの目標指標をもって、意識的に取り組みたいです。

12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさを守ろう

新型コロナ感染が世界でも日本でも広がり、たくさんの人が現在も亡くなっています。人類がジャングル等野生動物生息地にも開発を進めたことで、自然と共存していた細菌が共存できなくなった結果といわれています。また、近年頻発する世界や日本各地の豪雨・洪水も気候温暖化の影響といわれています。環境破壊の影響はすでに私たちの身近に起こっています。

リサイクル港のビン缶選別事業、リサイクルみなみのペットボトル選別事業、トライズの資源ごみ回収・掃除・洗濯事業、あかつきの資源ごみ収集場所管理業務、みのりのウェス事業、なるみのぼかし製品、つゆはしの石鹸等の製品、いくつかの事業所の作業軍手洗濯事業等、多くの事業所で、気候変動や海や陸の豊かさを守ることにつながる大事な仕事に携わっています。現在取り組んでいるところは、さらに環境問題に貢献できる工夫がないか検討を進め、環境問題に直接かかわっていない事業や仕事でも、この目標に貢献できることはないか検討し、できることを取組みましょう。SDGsの取組みを社会に広めるグッズ制作なども取り組めるとよいです。

なかまの仕事にとどまらず、法人・事業所の業務や生活施設やグループホームの生活の中で、12 13 14 15の目標に結び付く取り組みを見つけて推進します。

例えば「ソーラーパネル設置。公用車のエコカーへの転換。周辺緑化。紙の省力化。電気・ガス・水道の節約。公共交通機関や自転車通勤の奨励。フードロスの削減やコンポスト設置。地域の方々とゴミ拾い。」などが職員アンケートで出されています。法人全体や事業所として、また職員個々に呼び掛けるなど、幅広い取り組みをすすめます。

16 平和と公正をすべての人に

ゆたか福祉会理念の私たちの大切にするものに「平和：平和の尊さを忘れず、協力と交流の輪を広げていきます。」をかかげ、毎年の平和行進、地域の皆さんとの平和盆踊りなどに長く取り組んできました。ウクライナが侵略される戦争を目の当たりにし、平和はなににもかえがたいものであることを多くの仲間・職員が感じています。戦時には障害者は最も命の危機にさらされ、時には人間扱いもされません。そして戦争は最も障害者を生み出します。これからも仲間・職員・関係者の皆さんと平和を守る取り組みを続けます。取り組めてなかったところは、これを機に始めましょう。

17 パートナーシップで目標を達成しよう

ゆたか福祉会
わたしたちがめざすもの

■障害のある人たちの"いのちとねがい"を大切に、社会への参加と豊かな暮らしの実現をめざします。

■誰もが安心して暮らせる地域を作るために、たくさんの"つながり"を築き広げていきます。

■豊かな笑顔と人間性を育み、関係者の創意を活かすとともに、社会から信頼される経営をめざします。

ゆたか福祉会
わたし達の大切にするもの

尊重
すべての人々がかけがいのない存在であることを認め合い、その尊厳を大切にします。

参加
一人ひとりが事業の担い手であり、その実践と創意を大切にします。

共同
手をつなぎ支えあうことがなによりも大切であり、大きな力となることを確認します。

運動
願いを形に変えるため、地域や社会とともに新しい事業や制度を作り出していきます。

平和
平和の尊さを忘れず、協力と交流の輪を広げていきます。

ゆたか福祉会の理念の「めざすものにもの」「大切にするもの」にも、仲間・職員・関係者・地域や社会のみなさん　一人一人の存在をかけがえのないものとしてとらえ、創意を活かし連携をしていくことを大切に考えています。最近では、ベトナムとの交流や研修、人材確保や育成の取り組みも、愛知県内3法人やベトナム、エンジョイブル・イングリッシュ（EE）とフエ大学の方々とのパートナーシップで実現してきました。

SDGsの取組みを推進していくにあたっても、大きな取り組みも小さな取り組みも、たくさんの人との連携や協同を常に意識し、たくさんの人の知恵と力を集めて達成していきましょう。

まずはSDGsの取組みを、全事業所、全職員、そして仲間の会や保護者会・家族会に広げていきます。

表紙の作者紹介

「のれん」

つゆはし作業所　**猪飼 春雄**さん

つゆはし作業所で開所当時から活躍する春雄さん。ほかほか班では班長を務められています。現在は自主製品作りと並行しながら、様々な下請けの作業にも取り組んでいます。

今回制作した作品は、お昼休憩の時間で作りました。普段はパズルに熱中している春雄さんですが、使わなくなったストローをお見せし「一緒に作りましょう！」とお伝えすると、表情が「パアーッ」と明るくなり、2週間もかからずに完成させました。

仕事も大好きな春雄さんですが、仕事の時とは打って変わりニコニコと楽しそうな表情がみられました。そんなカラフルなのれんは、今、食堂の窓を彩っています。ドラゴンズファンでもある春雄さん。お気に入りのユニホームを着て、自慢げにのれんを紹介してくれます。

ほかほか班職員

日誌　9月

4日(日)　ベトナム海外研修(～10日)
6日(火)　保護者連合会研修会
8日(木)　第2ゆたか希望の家 増築工事地鎮祭
10日(土)　職員研修
12日(月)　事業運営推進会議
13日(火)　新主任研修/福祉村実地指導
14日(水)　法人安全衛生委員会
16日(金)　新管理職研修/権利擁護・虐待防止委員会
19日(月)　常勤及びパート職員研修
20日(火)　広報・ホームページ編集委員会
21日(水)　所長会議
26日(月)　研修部会議
28日(水)　副所長会議
29日(木)　社会福祉士相談援助実習 合同ガイダンス
30日(金)　第45回きょうされん全国大会 in東北・いわて(～10/1)

一般寄附（9・10月）

順不同 敬称略

大場　陽子
明治安田生命保険相互会社

賛助会員新規加入者・更新者ご芳名一覧

（10月6日～10月19日手続き分）

順不同 敬称略

橋本　由美

※利用者・保護者・職員の皆さんからも多くのご寄附をいただきました。

ありがとうございました

広報・478号

2022年11月号(2022年11月10日発行)
定価1部100円
法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 ／ 社会福祉法人ゆたか福祉会
印　　刷 ／ 株式会社東海共同印刷

法人協力会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協力会費 ＝ 年間1口6,000円、
賛助会員（個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円）

●銀行口座　名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行　柴田支店　普通預金 291-884
・中京銀行　鳴海支店　普通預金 150-425

●郵便振替口座　00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

12月
つゆはし作業所 永田一雄さん
『宇宙の草原』

2023 カレンダー販売の取り組み始まる！

多くの皆様のご協力をお願いします。

今年もカレンダー販売の時期を迎え、各事業所では10月後半から仲間たちや保護者の皆さんが中心となり、カレンダー販売の取り組みがスタートしました。

このカレンダー販売の取り組みは、今から30数年前の年末、「仲間たちのボーナス資金を作り出そう!」と始まりました。その後もこの取り組みは引き継がれ、現在も法人の自主財源づくりの活動として、多くの皆さんにご協力を頂きながら取り組む大切な活動となっています。

「働く仲間のうた」（壁掛け）12月は、つゆはし作業所の永田一雄さんの絵です！ぜひ多くの皆様に、引続きご協力をいただきますようお願い申し上げます。

お問い合せはこちら

☎052-698-7356

法人本部 岩口（いわぐち）まで

＊チラシ・注文書などの送付をさせていただきます。

＊各施設でも取り扱っております。

私たち 3回目の成人式を迎えました！

今回で 11 回目の連載となる「3 回目の成人式」です。毎回、登場する皆さんお一人おひとりの人生に触れながら、関わってこられたご家族・職員の想いを次代につなぎ、これからの人生がより輝くよう共に歩んでいきたいと思います。

森井 照子（もりい てるこ）さん

ゆたか生活支援事業所みどり

森井さんの自宅以外での地域での暮らしは、他法人のグループホームからスタートしました。その後ゆたか通勤寮に入寮。卒寮を機に平成 23 年粕畠ホームに入所されました。

現在の大清水ホームに引っ越しをされ５年になります。3 回目の成人式に「どんな事がやりたいですか？」とお尋ねすると「着物を着て写真を撮りたい」と、とても嬉しそうに話をされました。

「着物を着て写真を撮りたい」と嬉しそうな笑顔

ここ数年のコロナ自粛のストレスや、ご自身の膝や腰の痛み等も抱えながらですが、ホーム内でも絵を描いたり、職員や仲間とおしゃべりを楽しんでいます。コロナが落ち着いたら大好きな旅行も企画できたらと思います。

なるみ作業所

森井さんは高校卒業後、8 年間の就職を経て退職。その後は祖母の世話をしながら在宅生活をされていましたが、縁あって無認可共同作業所「フレンドハウス南」に入所されました。当時から人柄も穏やかで丁寧な仕事ぶりだったそうです。

その後、ワークセンターフレンズ星崎を経て、なるみ作業所に入所したのが平成 22 年 12 月のことです。来年 3 月に 60 歳を迎えます。

日中活動では、部品の組み立ての仕事に取り組んでいます。丁寧な仕事ぶりは変わらず、午前・午後の仕事終わりにはできた数をノートに記入し、帰りの会で報告することが日課です。これが仕事の意欲にもつながっています。

また創作活動で作製する絵は、クレヨンを使用して色々な配色で塗ることで、とても素敵な作品に出来上がります。これからも好きな仕事とともに、健康で楽しく過ごしていきましょう！

リサイクル港作業所

大矢さんとゆたか福祉会の出会いは、つゆはし作業所でした。開所してから 10 年間働き、その後、自宅近くに新しくできたリサイクル港作業所へ移られました。働き始めて早 28 年が経ちましたが、現在も元気に働き続けています。

大矢 徳三（おおや とくみつ）さん

～大矢さんへのインタビュー～

Q.1 番好きなお仕事は？

かごあけと細選別（ラインにカゴからビンを空ける作業と、ビンの高さや重さを測りビンを仕分けする作業工程）

Q. 還暦になった自分へ一言 !!

60 歳おめでとう。リサイクル港作業所ができて、長く働いている。当時は、お給料が少なかったけど、今は仕事頑張っているよ

現在も、後輩の仲間に負けないくらい色々な工程で活躍している大矢さん。体調面やケガに気を付けて、これからも頑張って下さい。

リサイクルみなみ作業所

荒川 道幸（あらかわ みちゆき）さん

荒川さんは昭和 57 年４月に上浜作業所（注１）に入所され、それからずっとゆたか福祉会の中で、共に働くなかまとして年月を重ねてこられました。

現在はグループホームで暮らしながら、作業所に通われています。作業所のなかでは、なかまの仕事を引っ張っていくリーダーとして活躍されています。

「60 歳になったら何をしたい？」とお聞きすると「これからも仕事を頑張りたい！」と笑顔で話してくださいました。

リサイクル現場は、夏は暑く冬は寒い厳しい現場ですが、これからもなかま達と一緒に元気に、名古屋市の委託事業という私たちの誇れる仕事を頑張っていってください！

※（注１）ゆたか作業所のプレハブを借り、卒業後、行き場のない子どもを抱えた親の皆さんの要望で開所した無認可共同作業所。

ゆたか生活支援事業所かさでら

昨年より還暦を迎えることを楽しみにされていた道幸さん。還暦を迎えたホームでのお祝いの席では、「かさでらホームでずっと暮らしたい」「リサイクルでずっと働きたい」と社会との繋がりを大切にしたいことを言葉にされました。

そして、母親想いの道幸さんは「母さんを助けてあげないといかん。僕が元気じゃないといかんでしょう」と口にされます。休日は帰省し、買い物などお母さんのお手伝いをしています。健康への意識も高く、おやつの量は少量です。

前向きで優しい道幸さん。これからもずっとホームでお祝いができる事を願っています。

つゆはし作業所

家根谷 典隆（やねたに のりたか）さん

家根谷さんは、つゆはし作業所の開所当時から 39 年通う大大大ベテランです。

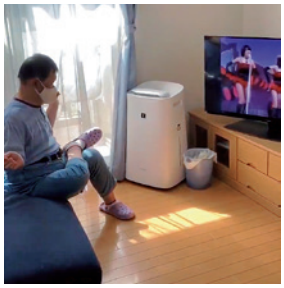
雨の日も風の日もバスを使い通っています。マイペースな一面もありますが、下請けで取り組んでいる仕事の一つの「コマ」の作業が得意です。誰よりも集中していてミスも少なく、黙々と取り組むことができます。

また、優しい笑顔で周囲を和ませてくれます。これからもその笑顔と気持ちで、なかよし班と作業所を引っ張っていってほしいです。

～なかよし班の皆さんより～

３回目の成人式おめでとう！！いつまでも純粋な家根谷さんでいてください。これからも一緒に仕事を頑張りましょう！

ゆたか生活支援事業所なかがわ



【ご家族（お姉さま）より】

典君、三回目の成人式おめでとう。

大きな病気を乗り越えて 60 才を迎える事ができて本当に良かったです。歌や踊りが大好きな典君です。このまま、のんびりゆったりと毎日を過ごせる様に祈っています。

【職員より】

３月のお誕生日が待ち遠しいですね。笑顔でホームに帰ってきてくれる日が多く、とても嬉しいです。好きな番組を見ているときの家根谷さんはとても輝いていて、職員も元気をもらいます。今年は職員と一緒に野球観戦をしました。また行く日が楽しみですね。

これからもホームの仲間と一緒に楽しく、健康に気を付けて過ごしましょう。今後もよろしくお願いします。

私たち 3回目の成人式を迎えました！

第2ゆたか希望の家

9月に還暦のお祝いを行いました。本来なら、お二人とも昨年お祝いをするはずでしたが、新型コロナウイルスの影響により、今年の開催となりました。全員集まってのお祝いはできませんでしたが、これからもお元気に過ごされることを皆でお祝いさせていただきました。

やまぐち ゆたか
山口 豊さん

平成10年10月、第2ゆたか希望の家開所と同時に入所されました。視覚障害がありますが、日常生活での活動範囲の中では物や部屋等の位置を把握され、自由に活動をしています。

職員との会話を楽しみにされて、いつも嬉しそうに話しています。日中活動ではクリーニング班に所属し、タオル畳みを担当しています。仕分け担当の仲間と連携しながら、丁寧に畳めるように頑張っています。

みんなからお祝いをしてもらったのが嬉しかったようで、終始にこやかにされていました。会話の中で職員を和ませてくれる豊さん。その明るさがいつまでも続くように、健康でお過ごし下さい。

くぼた みつのり
久保田 光徳さん

平成19年11月に入所され、楽しく過ごされている光徳さん。

日中活動では農耕班で椎茸の菌打ち作業や、野菜の収穫など、みんなと協力して頑張っています。絵を描く事も好きで、猫やウルトラマンなど楽しそうに描いています。ハウスでは物静かで、1人ソファーに座っていることが多いですが、最近では職員とのコミュニケーションも増え、「かくー」と背中を掻いて欲しいアピールをする事もあります。

61歳になる今年の誕生会では、9･10棟の仲間達からも祝福され、はにかみながらも嬉しそうな表情を浮かべていました。誕生日プレゼントは孫の手で、1人でも背中が掻けるようになりましたが、相変わらず「かくー」と職員を和ませてくれます。光徳さんおめでとうございます。

ワークセンターフレンズ星崎

たなか しょうじ
田中 正治さん

※（注2）1989年4月から、移転したゆたか作業所の建物を活用してスタートした無認可共同作業所

正治さんは1981年に南養護学校を卒業し、縫製工場や板金会社で懸命に仕事に取り組んでいたものの、体調不良で退職。その後は「さわやか共同作業所」（注2）でパン製造販売に従事しました。そして作業所の再編等に伴い、今に至っています。

数年前にお母さまを亡くされ、現在はご兄弟との二人暮らしです。将来の夢は「グループホームに入って、友達とお喋りをしながら暮らしたい」と、目を輝かせて語って下さいます。

大好きな甘いお菓子と腕時計を買うためにがんばっている正治さん。3回目の成人式、本当におめでとうございます。